

2014年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	電気通信工学科							
科目名	リメディアル数学演習							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年次前期			
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)/必修科目(電気エネルギーコース)/必修科目(情報システムコース)							
担当者	喜屋武 毅 / 中野 吉正							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整式の変形ができる。(A1)</li> <li>・分数式の計算ができる。(A1)</li> <li>・簡単な方程式、不等式が解ける。(A1)</li> <li>・簡単な関数のグラフが描ける。(A1)</li> <li>・三角比がわかる。(A1)</li> </ul>							
日程と内容	04/11 導入講義 04/18 整式の計算と因数分解 04/25 剰余の定理, 因数定理 05/02 いろいろな数(実数, 平方根, 複素数)と式 05/09 複素数・方程式と不等式 05/16 いろいろな不等式・不等式証明・(演習1) 05/23 2次関数 05/30 いろいろな関数 06/06 指数関数・対数関数 06/13 加法定理とその応用・(演習2) 06/20 図形と式(点と直線) 06/27 円の方程式・いろいろな2次曲線 07/04 2次曲線の接線・不等式と領域 07/11 演習・解説(演習1, 2) 07/18 総合演習・(演習3) 07/25 定期試験							
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	30%	計	100%				
授業到達目標の達成度	講義内容については、達成目標のいずれの項目も概ね達成している。							
反省点	演習科目であるため、2クラスに分けて授業が実施されている。クラス分けすることから、習熟度の違いが若干解消され、学生への細かい配慮ができるが、前年度との比較において、さらに学力格差が広がっている。数学な不得手な学生へのフォローに改善を施す余地があると考え。また、演習科目である趣旨から、リメディアル数学に比較して、定期試験のレベルを高く設定したことが合格率に影響している。クリアしてほしいレベルである。							
来年度の計画	授業内容に関しては現状の削減予定はないが、講義内容を精査して授業への興味や理解度が深まるようにする。特に、成績上位の学生への配慮や習熟度の違いを埋めるため、学生の自己学習を促す課題等を準備するよう努める。							
授業評価アンケートに対するコメント	アンケートの結果によると、総合評価は8.1で前年度と同じ状況。また、学生の予習または復習についての設問のポイントが若干改善しているが、理解度を深めるため、ホームワークを課すなどして工夫が必要である。学生の理解度を図りながらペースを変えており、内容は網羅しているので全体的には問題なし。							
履修登録者数	65名	定期試験 受験者数	64名	合格者数	55名	合格率	86%	